

## 「地元民しか知らない、絶景スポット」(2018. 2. 18)

2月という季節は、宣教の時として特別何かに取り組みという教会は少ないのではないかと思う。ところが、横手という街には「かまくら」という伝統行事が息づいていて、地元の方々はもちろん多くの観光客が訪れる。市内のホテルの予約を調べると、2月15日と16日は1か月前にしてほとんど満室だった。長老会はこの機会を宣教の機会と捉え、教会の業として取り組むことにし、祈り準備を重ねてきた。



2月15日夕方、祈りつつ準備した「横手教会ミニかまくら」がスタートした。「うわっ、綺麗！」そんな感嘆の声を上げ、足を止め、シャッターを切る観光客。恋人どうしだろうか、教会のミニかまくらを背景に彼女を写真に収める。時には韓国や中国から来られたのだろう、5~6人がまとまってしばしたたずむ。

こんなに写真を撮っていかれるのだから、誰かがブログなどで紹介していないか調べてみた。そうすると数名の方がアップしていた。その中に地元の方が、当教会のミニかまくらを「地元民しか知らない、絶景スポット」として紹介していた。最近、「インスタ映え」とか流行っているので、こうしたSNSが拡散して、教会が「地域のランドマーク」「観光スポット」となり、一人でも多くの方が教会の中にまで入り、共に賛美の輪に加わってくれたらどんなに嬉しいことだろう！

でも、教会の中まで入ってくる方はどれほどいるだろうか？そんな心配をよそに、毎年静岡から来てくれているSさん初め、福岡、岩手、そして地元の方々が来てくれた。接待担当者が甘酒やお菓子のセットをそ〜と差し出す。3名の教会奏楽者がオルガンやピアノで讃美歌を弾き、共に歌う。参加された方々は皆この機会を楽しまれたようである。



主は私たちにみ言葉の約束を与えて下さっている。「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。」(イザヤ 43:19) 今回のミニかまくらの営みを振り返って、教会員の皆さんお一人おひとりが、いろいろな反省と同時に大きく開かれていく展望を感じ取られたのではないのでしょうか。次年度に向けて活かしていければ、と願います。